

1 A たより

NO 1

発行によせて

1年A組の保護者の皆様、初めましてこんにちは、わたしは、高橋 晋作と申します。4月に、M中学校より転任いたしました。実は、この地とは15年ぶりです。平成元年から4年間、この本校に勤務しておりました。だから、15年ぶりなんです。15年経たMO中学校は、実に綺麗で、そして入学式の歌声のように、2、3年生は本当に立派で、さわやかな中学生ばかりですね。とっても感心しました。わたしのことを紹介させて頂きますと、わたしはこの地区生まれではありません。酒田市出身です。でも、教職について、ずっとこの地区をわたり歩いてきました。今現在、家は、M中学区にあります。そして、入学式でもお話しした通り、長男は、今年度、皆さんと同じ中学1年生となりました。同じ、中学1年生を持つ親として、きっと、心に抱く悩みや不安は、保護者の皆さんも私自身も共有することは多いでしょう。どうぞ、この1年間宜しく願います。このたよりは、保護者向けでもあり、生徒向けのたよりでもあります。1年A組の様子、抱えている問題点などを報告し、担任として思っていることを伝えればいいなあと考えております。また、一方通行のたよりにならないためにも、必ず返信用の空欄を設けております。このたよりを読んで感じた疑問点や日ごろ考えていること、中学生の校外での様子などで困っていることなどが出たときは、どんな小さなことでも構いませんので、この空欄に書いて生徒を通じて届けて下さるようお願い致します。氏名の記名・無記名は問いません。また、メールでの感想でも構いません。

2つのハードル

春はいろいろなところで、人の移動が起こります。もちろん、わたしがMO中に転勤したように、いろいろな職場でも人の移動はあるのです。我が家では、ゴミ捨ては、わたしの担当です。入学式当日、ゴミステーションにゴミを持って行ったとき、たまたま一緒にゴミを出しに来た、お隣のおじいさんから「先生、学校移ったんだな」と声をかけてもらいました。おじいさんは、胃腸を患って、長く闘病していたのですが、最近はずっきりお元気になられたようです。「最近、新聞屋さんも気を使ってくれて、ゆっくり寝れるよ。」そんな話までしてくれました。

わたしはというと、新しい学校、新しいクラスの担任ということで、朝早く起きて、どんな話をするか考えていましたから、おじいさんが半分うらやましかったですね。

入学式が終わって、記念撮影も終わり、教室に入って、学級開きです。

そこで、2つの乗り越えなくてはならないハードルのことを話しました。

「式の中で、T小のS校長先生が、小学校の時に、とても心遣いがあった学年だと言っていました。また、N教頭先生も、立派な式だったと言っていました。わたしも式の最中のみんなの様子をみていて、ひとり一人のやる気に満ちた表情とその落ち着きに、きっと“いい学校”、きっと“いいクラス”になるなあと感じました。では、い

いい学校とは何か？いいクラスとは何でしょうか？

このMO中学校は、学校の敷地面積では、地区1でしょう。校舎の施設の面、グラウンドの数などでも、地区1、いや県内でもトップクラスの学校でしょう。じゃあ、敷地面積が広い学校や、施設が優れた学校が“いい学校”なのでしょうか？それは違います。いい学校とは、『ひとり一人の力を思う存分に出し切れる学校』なのです。校舎がオンボロでも、教室に北風が入り込むような学校でも、中で生活している生徒達ひとり一人が、自分たちの力を存分に発揮できる学校は、“いい学校”なんですね。その逆もあることはわかるね。いくら校舎が立派でも、自分の力を出し切れない、出し惜しみしなくてはならない、存分に力を出すことが出来ない環境、人間関係、そんな学校もあるのです。では、どうやったら、いいクラスになれるのか、わたしは、そのために2つのハードルがあると思っています。

1つのハードルは、早く、わたしは、〇〇小出身だという考えを乗り越えること。ここには、町内8つから集まった生徒達があります。〇〇小出身ということで、小さなグループの中で生きようであれば、きっとこれから、他の小学校出身の人たちの目を気にして、自分が思う存分に力を出せなくなってしまうでしょう。

〇〇小出身から、“MO中学校1年A組の同じ仲間”という考えに立たなくてはなりません。それが、いいクラスになるための、最初のハードル。

2つ目のハードルは、自分と考え方の違う人がいていいんだと思う気持ちです。

昨年は、全国でいじめの問題がいっぱいあったね。ニュースを見ると、いじめで命をなくしたりという話ばかり。(生徒のある人は、うなずいて聞いていました。)じゃあ、いじめって何？いじめは、大勢の人が、意見や考えが違う人を仲間から外すことです。そんなクラス、絶対にいいクラスっていけないでしょう。だって、その中で自分が思う存分に力を出せるかっていうと絶対に出せっこない。一部の力のある生徒の顔色を見たり、回りの目つきをいつも気にしながら、生活をしていくようになるんですね。いじめは絶対にあってはダメ。そのための、乗り越えなくてはならない、もうひとつのハードルが、それなんです。

顔や声や癖や好きなものがひとり一人違うように、考え方や疑問点だって、ひとり一人違って当たり前。違うから面白い。みんな違っていいんだと思える心。それが、いいクラスになるために乗り越えなくてはならないハードルですよ。もちろん、考え方が近い人と話すのは楽しいし、楽！でも、そればかりじゃいけないの。自分と違う人がいるから、自分は勉強になるし、自分が高まって成長していくわけ。いいクラスになるためには、わた

し一人がんばってもできないんです。みんなの協力がなければ。そのためにも、この2つのハードルを早く乗り越えて欲しいですね。・・・以下省略」

実は、朝早く起きて考えていたのですが、なかなか話の柱が定まらずに困っていたんです。人に話をするとというのは、何年経っても難しいものです。それでも朝起きて気づいたことがあるんです。朝、窓越しに外を見てみると、新しい新聞屋さんがやってきました。すると、その新聞屋さんは、我が家のちょっと手前でバイクを止めて、歩いて届けてくれているではないですか。おかげで、エンジン音で起こされることはないのです。おじいさんの話していたわけがようやくわかります。

きっと思いやりにあふれた温かい心の持ち主なんだと思いました。

“共に生きる”というテーマで、ハードルの話をしようと、心に決めた瞬間です。

ご意見・ご感想をお願いします。

[戻る](#)